

OKINAWA ARTS COUNCIL

沖縄アーツカウンシル
令和3年度
沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

支援事業事例集

OKINAWA

ARTS COUNCIL

沖縄アーツカウンシル

令和3年度

沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

支援事業事例集

OKINAWA ARTS COUNCIL

| 目次 |

- 03 ごあいさつ
- 04 沖縄アーツカウンシルとは
- 06 令和3年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 公募について
- 08 プログラムオフィサーの紹介
- 09 支援事業のご紹介（団体）
- 39 支援事業のご紹介（個人事業主）
- 56 沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 採択件数・補助金額等
- 57 そのほかの取り組み、資料

沖縄アーツカウンシル

住所 沖縄県那覇市字小禄 1831-1
沖縄産業支援センター 6階 605
公益財団法人 沖縄県文化振興会内
TEL 098-987-0926

Web



Facebook



ごあいさつ

令和3年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業による支援事業事例集「OKINAWA ARTS COUNCIL」の発刊にあたり、ごあいさつ申し上げます。

当該事業は平成29年度より沖縄県文化振興会が県から委託を受けて実施している事業です。前身の「沖縄文化活性化創造発信支援事業」から数えると実に10年目を迎えます。その間のべ312件の魅力的な事業を採択し支援してまいりました。

温暖で湿潤な島々で生まれた沖縄文化はこれまでに多くの文化の影響を受けながら成長してまいりました。中国を中心とした近隣のアジア諸国・日本・さらには米国等々、古きを受け継ぎ新しきを拒まず、継承と創造を積み重ね、現在の豊かな沖縄文化を形成してきました。私たちはその先人たちの英知に学びつつ、さらなる継承と創造を積み上げていかななくてはなりません。

今年も多彩な応募が寄せられ、アドバイザーボード委員による議論等により、27件の事業を採択しました。文化芸術の専門家としてプログラムオフィサーを配置の上アーツカウンシル機能を活用して事業者の皆さまに寄り添うハンズオン支援や評価・相談業務に取り組んでいます。このような取り組みを事例集として皆様に紹介し、広く発信していくことも私どもの使命であると捉え、発行する次第であります。

沖縄文化の力強さとその多様性等が皆様に伝わりましたら幸いです。

結びに、関係者をはじめご協力いただきました皆様に心からの敬意と感謝を申し上げ、ごあいさつといたします。



公益財団法人沖縄県文化振興会
理事長 稲福 弘

沖縄アーツカウンシルとは

沖縄は、古来、アジア諸国との交易を通じて多様な文化芸術を受け入れ、沖縄の精神的、文化的風土と融合させることで、亜熱帯の海に囲まれた美しい島々に、独特の文化芸術を育んできました。

文化芸術は、長い歴史の過程で積み上げられ、伝えられてきた英知の結晶であり、人々が心豊かに生き、活力のある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として、本県の実現に欠かせないものです。
(沖縄県文化芸術振興条例前文より)

こうした認識に立ち、沖縄県は、本県の多様で豊かな文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図ることを目的に、沖縄版アーツカウンシル機能を導入した「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」を実施しています。公益財団法人沖縄県文化振興会は、沖縄県から委託を受け、県内の文化芸術団体に本事業を通じてさまざまな支援を行っています。

沖縄アーツカウンシルは、文化芸術分野の専門家で構成されるアドバイザリーボードを設置し、プログラムオフィサーが現場での併走型のハンズオン支援を行います。アドバイザリーボードは、事業の選定及び評価・検証、プログラムオフィサーは文化芸術団体へのハンズオン支援や相談業務のほか、県内の文化芸術の活動状況を踏まえた助成制度の構築を行っています。

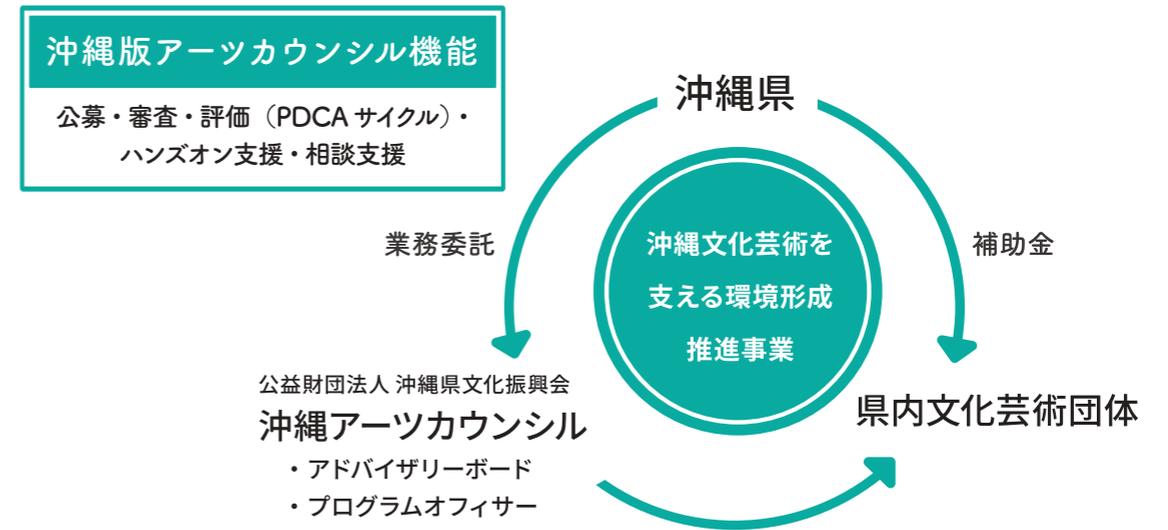
About Okinawa Arts Council

Since ancient times, Okinawa has been exposed to various cultures by trading with other Asian countries. Okinawa has cherished the arts and culture that are unique to these beautiful subtropical islands by assimilating those of other Asian cultures with the ethos and cultural climate of Okinawa.

Arts and culture are the result of ancestors' wisdom gathered over a long period of time. In order to make a spiritually affluent lifestyle for the people here, to create a vibrant society, and to build friendships with the rest of the world, it is essential that Okinawa Prefecture further develops its arts and culture into the future (excerpt from the preamble to the Okinawa Arts and Culture Promotion Ordinance).

In recognition of the above, and utilizing the Arts Council Okinawa project, we aim to implement the project to establish an environment to support Okinawan arts and culture in order to promote the continued development of artistic and cultural activities, using Okinawa's rich and diverse culture. Designated by the Okinawa Prefectural Government, the project aids art- and culture-related organizations in Okinawa by providing financial support.

In consultation with an advisory board consisting of a group of experts in the field, the Okinawa Arts Council provides hands-on support through program officers. The advisory board evaluates and approves programs. Along with providing hands-on support and playing an advisory role for each program, program officers help establish various grant programs depending on each arts and culture activity.



関連する条例・位置付け・所管 Related Accordance and Measures

沖縄県文化芸術振興条例

Okinawa Arts and Culture Promotion Ordinance



沖縄 21 世紀ビジョン

Okinawa 21st Century Vision Plan



沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課

Outline of measures by the Culture Promotion Division, Department of Culture, Tourism and Sports, Okinawa Prefectural Government



沿革 History

平成 5 (1993) 年度	財団法人 沖縄県文化振興会設立 Okinawa Prefectural Foundation for Cultural Promotion established
平成 23 (2011) 年度	公益財団法人 沖縄県文化振興会へ名称変更 沖縄県の組織改革により文化観光スポーツ部が創設される Changed system to a public interest incorporated foundation: the Okinawa Prefectural Foundation for Cultural Promotion. Okinawa Prefectural Government underwent organizational reform and the Department of Culture, Tourism and Sports was established.
平成 24 (2012) 年度	文化振興の主要事業として、一括交付金を活用した沖縄版アーツカウンシル「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」が5ヵ年計画でスタート As part of the cultural promotion main project, using government subsidies, a five-year project to support cultural creation and promote Okinawan culture was started.
平成 29 (2017) 年度	「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」が活性化・創造発信支援事業の後継事業として開始され、令和3(2021)年度まで継続 The project to establish an environment to support Okinawan arts and culture was set up to replace the project to support cultural creation and promote Okinawan culture, and it has been active since. The project is scheduled to last until 2021.

令和3年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業 公募について

文化芸術に関する事業を行う県内の団体等を対象に、次の3つの区分で公募を実施し採択された事業を支援しています。

区分 1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

- ・文化芸術活動の継続や強化に向けて、事務局体制の構築や組織化を図る取り組み
- ・文化芸術活動を支える担い手等の育成・継承に関する取り組み
- ・個人事業主による文化芸術活動の継続や強化に向けた自己研鑽に係る取り組み
- ・オンライン配信や映像制作のスキルアップのための取り組み 等

区分 2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

- ・認知度の向上やリピーター獲得に向けた体系的な計画を有する取り組み
- ・創作人材の育成に係る魅力ある創造発信を伴う取り組み
- ・アーティストの交流等を促進する取り組み
- ・動画配信サイト等を活用したライブや上映会、公演、展覧会 等

区分 3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

- ・県内の民間事業所（観光、まちづくり、産業等関連分野）や教育機関（各種学校、図書館、博物館、公民館等）等と連携して行う取り組み
- ・共生社会実現に向けて関係機関（福祉、国際交流等関連分野）と連携して行う取り組み 等

団体

公募受付期間	令和3年3月23日(火)～4月2日(金)
補助対象者	県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う団体
補助金上限額	区分1：500万円 区分2：500万円 区分3：1000万円
補助率	1年目：90% 2年目：80% 3年目：70%
応募数	33件
採択数	13件(採択率39.4%)
補助金総額	42,376千円(当初)

個人事業主

公募受付期間	令和3年6月1日(火)～6月11日(金)
補助対象者	県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う個人事業主
補助金上限額	区分1、2、3 いずれも100万円
補助率	90%
応募数	47件
採択数	14件(採択率29.8%)
補助金総額	10,452千円(当初)

		団体	個人事業主
令和3年	2月	令和3年度公募情報公開／公募説明会／個別相談会	
	3月	公募説明会／個別相談会	
	4月	● 応募締切／アドバイザーボード審査会	
	5月		● 個別相談
	6月	● 事業採択／交付決定／事業開始	● 応募締切／アドバイザーボード審査会
	7月	● 概算払い(8割上限)	● 事業採択
	8月		● 交付決定／事業開始
	9月		● 概算払い(8割上限)
	10月		
	11月	● 中間調査(遂行状況等の確認)	
	12月		● 事業完了
	令和4年	1月	
2月		● 事業完了	
3月		● 報告書提出	● 補助金交付

プログラムオフィサーの紹介

[チーフプログラムオフィサー]

林 恭子 | はやし・やすこ

青森県津軽生まれ。沖縄の風土と文化に魅了され、2003年から那覇市在住。那覇市内で劇場の立ち上げと運営に携わった後、新聞社での取材・執筆、舞台公演の企画制作等に関わる。遠い目標は沖縄と津軽の文化の融合。

島袋 弥生 | しまぶくろ・やよい

広報やPR、イベント運営などのプロモーション業務や課題整理のための調査や分析に携わるほか、ウェブメディアなどでの執筆も経験。人が集う「場づくり」を創造する空間デザインにおいても活動する。

[プログラムオフィサー]

麻生 佐矢香 | あさお・さやか

那覇市出身。沖縄県立芸術大学在学中に多数の展示会に参加。絵本作家の夫を支えつつ、3人の子どもたちと日々奮闘中。2018年までは中学校で美術講師として勤務。最近では造形作家として「外間あさお」名義で活動中。

真栄城 桃子 | まえしろ・ももこ

読谷村出身。大学時代にミュージカルに会い、何らかの形で文化と芸術を仕事にしたいと思い活動。2019年3月までの4年間は西原町教育委員会で、さわふじ未来ホールの自主事業の企画運営等に携わる。

上地 里佳 | うえち・りか

宮古島市出身。大学院でアートプロジェクトの現場に携わったことを機に、東京都三宅島や富山県氷見市にて事務局スタッフに従事。2016年からアーツカウンシル東京での中間支援業務を経て、2021年より現職。

高井 賢太郎 | たかい・けんたろう

和太鼓がきっかけで日本の芸能に興味を惹かれる。大学の講義で沖縄伝統芸能に会い、現在は、琉球舞踊と組踊の演者として活動中。(令和3年8月まで在籍)



イラスト:外間あさお

OKINAWA
ARTS COUNCIL

令和3年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業

支援事業のご紹介 (団体)

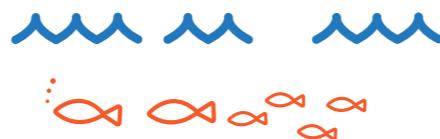
支援事業一覧（団体）

区分

1

文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

- ① 沖縄出版文化の県外及びアジアでの交流・連携ネットワークの構築事業
沖縄出版協会
- ② 沖縄の海人文化の保存・継承活動を核にしたまちづくり事業を
持続的に発展させるための組織強化事業
特定非営利活動法人 ハマスーキ
- ③ シティブディ復活に向けた、与那国島の祭事と芸能を受け継ぐ
「場」づくり事業
一般社団法人 与那国フォーラム
- ④ 八重山における文化芸術のオンライン活用事例を模索する実証実験
プログラム
やいまぬむじか実行委員会
- ⑤ 沖縄芝居における基礎訓練法の確立および、大道具制作と若年層向け
解説書への取り組み ー沖縄芝居研究会創立十周年に際してー
沖縄芝居研究会



区分

2

文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

- ① 幼児向け演劇プログラムの開発
一般社団法人 おきなわ芸術文化の箱
- ② 復帰50年写真展へ向けた戦後沖縄写真史の再構築事業
まぶいぐみ実行委員会
- ③ サブスク時代における沖縄発の音楽プラットフォーム構築事業
株式会社 クランク
- ④ 沖縄映画に、音声ガイド・字幕を付け、
沖縄発映画の新たな鑑賞方法創出事業
株式会社 918
- ⑤ 「おきなわの未来の三線文化」創造拠点創出事業
沖縄県三線製作事業協同組合
- ⑥ やんばるんるん♪コンサートプロジェクト
特定非営利活動法人 琉球交響楽団

区分

3

文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

- ① 沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える展示プロジェクト
公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立ひめゆり
平和祈念資料館附属ひめゆり平和研究所
- ② アーティストと開発する社会教育プログラム
特定非営利活動法人 地域サポートわかさ

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

沖縄出版文化の県外及びアジアでの 交流・連携ネットワークの構築事業

沖縄出版協会 | 糸満市

Web



取
組
概
要

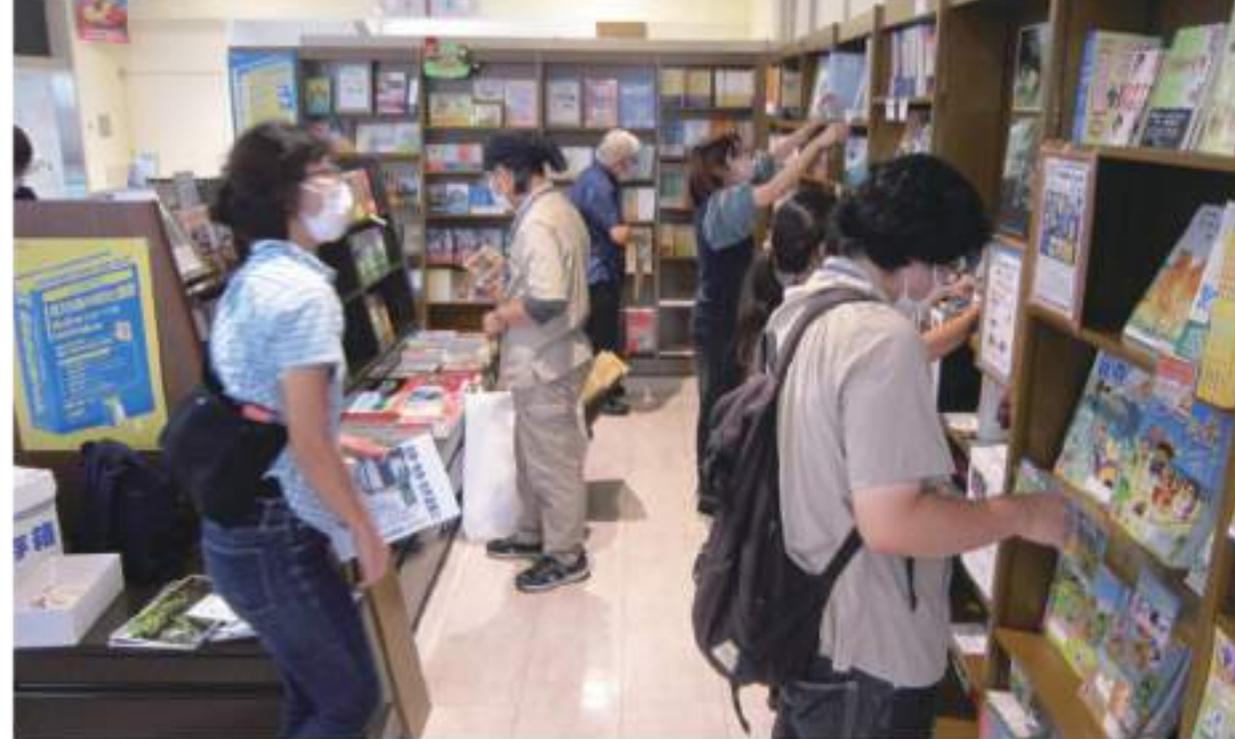
- ① 沖縄出版協会のプラットフォーム構築
- ② 「地方出版の現状と課題」シンポジウムの開催&沖縄出版協会と県外出版人との連携会議
 - ・基調講演：「沖縄文学の特質と可能性」／大城貞俊（小説家・詩人・文芸評論家）
 - ・シンポジウム「地方出版の現状と課題」
 〈県外出版人〉向原祥隆（鹿児島 南方新社代表）、合田有作（京都 光村推古書院代表）、ブックインとっとり事務局（鳥取 ※映像での参加）
 〈沖縄出版協会〉武石和実（榕樹書林社長）、大城佐和子（東洋企画印刷専務取締役）、仲村渠理（琉球プロジェクト代表） 進行：宮城一春（フリー編集者）
- ③ おきなわ本フェア開催
 - ・〈沖縄〉日程：2021/9/19（日）～10/31（日） 会場：ジュンク堂書店 那覇店
 - ・〈東京〉日程：2021/11/1（月）～11/30（火） 会場：銀座わしたショップ本店
 - ・〈大阪〉日程：2022/1/4（火）～2/13（日） 会場：大阪ジュンク堂書店 難波店
- ④ マスコミや沖縄文化発信者等の異業種と連携したイベントの開催
 - ・沖縄本の復刻版試作品発刊
 - ・県内書店への流通体系をより活用しやすくするためのシステム開発

さまざまな切り口から、沖縄本に触れる

沖縄が歩んできた歴史や近隣アジア諸国との交流を背景に、独自の文化を残していこうと発展してきた背景を持つ沖縄の出版文化。県内外、さらにはアジアを視野に入れて、「沖縄本」について情報発信や流通基盤の整備に取り組んでいる。那覇では第3回目となる「おきなわ本フェア」にて、トークイベントだけではなく、アナウンサーによる絵本や方言集など幅広いジャンルの本の朗読会や、音楽家の歌曲集をもとに歌とアンサンブルコンサートを企画するなど、沖縄本に馴染みがない人にも関心をもってもらう切り口を提案しな



おきなわ本フェア（東京）で開催した「出版による沖縄戦継承の現在」



「おきなわ本フェア」では加盟する出版社の沖縄本がずらりと揃う

から実施。回を重ねるごとに、出版にとどまらないさまざまな分野との連携を強めている。他団体との連携強化と並行して、若手出版人を中心にウェブサイトの再構築を行い、情報発信にも力を入れた。特に「出版人列伝」では、沖縄出版界のいまを知る手がかりとして、主に県内で出版に携わる方々のインタビュー記事を継続して掲載していく。

シンポジウムから見た出版人の課題と展望

「交流・連携ネットワークの構築」を主眼に置いた本事業では、県外出版人を招いたシンポジウム

も開催した。書籍の流通や自社出版の企画とニーズの捉え方、後継者の育成についての課題や対応について議論するものである。「出版社として書籍の出版を一定に維持するためには、需要と企画したいものが合致するジャンルを意識する必要がある」という意見は、出版人として共通したものであった。一方で「これまでの紙の出版は『伝統工芸』のようにも思え、書籍の編集だけに注力することが、若手の仕事創出につながるかは不安」という声もあり、新しい事業展開を模索する必要があるという意見も交わされた。沖縄出版協会として、未来への課題は多いが、沖縄出版人の活動の創出については、まだまだ開拓の余地がある。

プログラムオフィサーより

出版界は不況だ、という言葉がささやかれる昨今。県外出版人を交えて開催したシンポジウムでは、不況と言われる状況下でもあの手この手で出版界を面白くしようとする心意気が印象的でした。「本屋が少ないなら、お土産屋や道の駅はどうか」「家族の都合で引っ越しするなら、引っ越し先で『支社』となって活動できるよう整えよう」...など、課題に対して柔軟に考えていく姿勢そのものが、沖縄出版協会への心強いエールとなったように思います。沖縄出版協会の強みのひとつは、特色ある出版社・出版人が集まるチームだということ。ベテランから若手出版人が、それぞれの強みや得意技を発揮しながら、今後の活動が展開されていくことが楽しみです。（担当：上地）

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

沖縄の海人文化の保存・継承活動を核にしたまちづくり事業を持続的に発展させるための組織強化事業

特定非営利活動法人 ハマスーキ | 糸満市



取組概要

① 活かす&生かす事業

- ・体験メニューの実施&ブラッシュアップ
修学旅行SDGsプログラム実施、体験メニューのオンライン化
- ・社会福祉事業所と連携したアート作品の開発&「マリンオーシャン展」の実施
会期：2022/2/21（月）・2/22（火）
会場：海のふるさと公園
- ・海人の道具制作キット試作
ミーカガン（水中メガネ）、サバニの簡易版制作キットの試作・開発

② 残す事業

- ・「海人の言伝」検討委員会の実施
委員：真栄里泰山（沖縄大学客員教授）、当山昌直（生物、地域文化聞き取り事業専門）、上原隆（元糸満漁協参事）、大城弘明（元沖縄タイムス社写真部、写真家）、古谷千佳子（海人写真家）
- ・Webサイト制作
海人文化に関わる情報やデータを集約したプラットフォームを目指し制作した

地域の人々と取り組む海人文化の継承

沖縄島最南端に位置する糸満は、漁業が盛んで、古くから「海人（ウミンチュウ）のまち」として知られている。特定非営利活動法人ハマスーキは、漁具や海人文化に関わる資料の展示を行う「糸満海人工房・資料館」を拠点として、歴史講話やサバニの乗船体験など積極的に取り組んできた。今年度は、これまで開発した体験プログラムや、データ化した漁業のようすを描いた鉛筆画などを活用し、海人文化を「活かす&生かす事業」「残す事業」の2軸で事業を展開した。

「活かす&生かす事業」では、これまで開発してき



検討委員会には各方面から専門家が集まる



県外からの修学旅行生に向けて海人文化を解説

た体験プログラムの実施とブラッシュアップ、地域の社会福祉法人と連携した展覧会の開催、海人道具の制作キットの開発を行った。海人文化を知らない人へどう伝えていけるのか、SDGsの観点から海人文化を学ぶプログラムや、異分野や地域団体との連携を積極的に行うことで、より多様な人々に届ける糸口をつくった。

「残す事業」では、海人文化を保存・共有していくための情報の編纂作業に着手。編纂にあたっては、糸満市史編纂に携わった方や聞き書きの実践者といった専門家を交えて、海人を取りまく営みについてどのような観点から整理、情報収集すべきか検討する会議を定期的実施した。会議で話された内容をもとに、かつての漁業や

漁具、カミアチネー（魚の売りあるき）といった職業など、個人からの聞き取りも積極的に行いながら、糸満の海人文化の輪郭をより具体的に描くことを試みた。本事業で編纂した情報はウェブサイトにて公開し、随時更新する。

文化を活かし、残していくために

環境の変化や技術の発達にともなって、海人文化は日々変化し、風景が変わり、海人たちの高齢化も進んでいる。継承していくことの切実さが一層増しているいまだからこそ、今年度取り組んだ「活かす」「残す」活動が循環していくことに期待したい。

プログラムオフィサーより



2021年5月、ハマスーキの理事長を務め、旗揚げ役として事業推進を牽引してきた上原謙さんが逝去されました。このことによって、事務局長を務める上原達彦さんをはじめ、メンバーのなかで海人文化の保存・継承の意志がより強まったことがうかがえました。その想いを源泉に、糸満を生きた海人たちの知恵や工夫、記憶や暮らしを残していくための仕組みづくりに向けて舵を取りながら、ハマスーキの活動は続いています。(担当：上地)

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

シティブディ復活に向けた、与那国島の祭事と 芸能を受け継ぐ「場」づくり事業

一般社団法人 与那国フォーラム | 与那国町



Web

取
組
概
要

- ① 舞踊講習会（毎月2回）
 - ・在沖縄与那国郷友会、石垣在与那国郷友会の会員に向けた講習（講師：与那国民俗芸能伝承保存会）
- ② 組踊地謡講習会（毎月1回）
 - ・祭事等で地謡を務める町民に向けた講習（講師：在沖縄与那国郷友会の組踊地謡経験者）
 - ・笛の演奏に興味を持つ町民に向けた講習（講師：在沖縄与那国郷友会の組踊地謡経験者）
 - ・歌三線初心者の町民に向けた講習（講師：祭事等で地謡をつとめる町民）
- ③ 親子向け笛作りワークショップ
- ④ 実演・ワークショップ「組踊への招待」
 - ・2021/10/24（日） DiDi与那国交流館
- ⑤ 狂言講習会（毎月1回）
- ④ 成果報告会
 - ・2022/2/19（土） DiDi与那国交流館

ふたたび根付きはじめた 芸能継承の仕組み

与那国島の「シティブディ（シティ踊り）」は、シティ（節祭）の期間中に各公民館が対抗して舞踊、キングイ（狂言）、クミブディ（組踊）、ブー（棒踊り）を披露する祭事芸能で、かつては5つある公民館それぞれから150名もの人々が参加して盛大に開催されていたが、町制60周年（2007年）の記念行事を最後に行われていない。組踊と狂言については、シティブディ以外で演じられる機会がほぼなく、伝承の断絶が特に危惧されている。一般社団法人与那国フォーラムは、4年間に渡る与那国民俗芸能の継承に関する調査を経てまと



親子向け笛作りワークショップ



報告会では地謡の受講者が初めて唱えとあわせて組踊「雪払い」を上演

めた「与那国島の祭事芸能をうけつぐBOOK—与那国民俗芸能人材育成計画書」に基づき、DiDi与那国交流館を会場に舞踊、組踊地謡（琉球古典音楽）、狂言の講習会を昨年度から定期的に開いている。町内在住の皆さんが熱心に学び、どの講習会も着実に参加者を増やし続けている。舞踊においては、与那国で指導を受けた在沖縄与那国郷友会会員が踊りを持ち帰り、ほかの会員に伝える流れもうまれた。親子向けの笛作りワークショップを実施したり、地謡の受講者が唄三線の初心者や地域の子どもたちを対象に指導を始めたりと、次世代への継承も本格的に動き出した。

また、若手実力派の組踊実演家を与那国に招き「組踊への招待」と題して実演とワークショップを開催し、子どもから年配の方まで多くの町民が参加した。所作のワークショップでは、小学生など7人が立方実演家の指導で「歩み」を体験。組踊の人気演目「執心鐘入」の抜粋版が演じられると、第一線で活躍する実演家たちの熱演に盛んな拍手がおくられ、与那国での組踊復興に向けた機運の高まりが感じられた。与那国フォーラムが、途絶えかけた芸能継承の仕組みの再構築に挑んで6年。継承に向けた取り組みは目に見えるかたちで前進を続け、ふたたび根付きはじめています。

プログラムオフィサーより



2月19日、今年度の講習会参加者が舞台でその成果を発表する報告会が開催されました。笛や三線の初心者の皆さんは今後の継承に向けた決意を語り、地謡の受講者は初めて唱えとあわせて組踊「雪払い」の上演を実現させました。舞踊、狂言も熱いこもった舞台が続き、プレ・シティブディとも言える価値ある時間となりました。継承の後押しとなるシティブディの復活は、もう手の届くところまで近付いています。（担当：林）

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

八重山における文化芸術のオンライン活用事例を模索する実証実験プログラム

やいまぬむじか実行委員会 | 石垣市

Web



取組概要

- ① 離島での配信事業の展開と実証実験
 - ・「與那覇有羽民謡ライブ」
2022/2/22日(火) DiDi与那国交流館
- ② 配信技術を通して、八重山の学生・青年会と共に文化芸術の発信に挑戦する取り組み
 - ・「八重商Steam.Lab部×やいまぬむじか 技術(音響・照明・配信)セミナー」
2021/10/13(水) しらほサンゴ村
 - ・「島で役立つ収録技術セミナー in 与那国」
2022/2/23(水・祝) DiDi与那国交流館
 - ・「PC1台で出来る配信技術セミナー in 波照間」
2022/2/26(土) オンラインセミナー
- ③ 八重山における文化芸術のオンライン活用事例を模索する実証実験
 - ・「かたちある文化・つなぐ文化 文化財を通して八重山の文化に触れよう」
上映・配信期間:2022/2/11(金・祝)～2/25(金) 重要文化財(建造物)旧宮良殿内
出演:大工哲弘(唄・三線、「八重山古典民謡」県指定無形文化財保持者)、
大工苗子(琴)ほか
- ④ ARを用いた小規模イベントの実証実験
 - ・「AR配信ライブ Yoshitoo! & High School Friends」
2022/2/28(月) オンラインライブ

離島だからこそ不可欠な オンライン配信の在り方を模索

やいまぬむじか実行委員会は、八重山のアーティストの活動をオンライン配信でサポートしていこうと、昨年のコロナ禍の影響を受けて音楽好きの有志で設立された。空路を利用しないと往来が難しい立地のなか、後押しするように、イベントの減少や航空路線の減便などで人の往来が少なくなったことから、影響を受けたアーティストやテクニカルの仕事自らみ出すことで収益を獲得していこうというものである。昨年



八重山商工高校を対象とした配信技術セミナー



国登録有形文化財(建造物)八重山民俗園旧牧志家住宅主屋(石垣やいま村内)での八重山古典民謡・舞踊の収録(収録曲「与那国の猫小」)

のオンラインライブ配信の取り組みにおいて、実行委員会内でも仕事の創出や役割の割り振りなどが十分に出来なかった背景から、今年度は、離島でのオンライン活用を促進するセミナーの開催とともに、小規模でも実施可能な体制を築こうと、事務体制の基盤を整えることを目的とした。

島内の文化財を活用し、 八重山民謡や芸能などを発信

今回の取り組みのひとつは、大工哲弘さんと地

域の実演家を起用して、民謡・舞踊を石垣市内の文化財を背景に収録、編集を加えて、文化財にて上映、八重山の芸能の魅力を伝えるというものであった。国内だけでなく、海外へも八重山の芸能を知ってもらおうと観光客向けの活用も模索すべく、映像には民謡の英訳テロップを付けて上映し、会場ではアンケート調査を行った。このような取り組みは、地域の文化財課と協力して成しえたもので、今後もこのような協力体制を他でも築くことで、八重山芸能のアプローチが多様になるものではないかと期待する。

プログラムオフィサーより

立ち上げて間もない組織であり、今年は、小規模でも実行できる体制基盤の整備を重点に行いました。少しずつではありますが、運営体制での役割が分担できるように、意識作りが出来たのではないのでしょうか。その運営体制で行った、与那国等でのセミナーは、地域の協力もあり無事に終了しました。空路が主な交通手段である沖縄で、配信環境を整えていくことは、文化振興において今後も求められるでしょう。(担当:島袋)

1 文化芸術活動の継続・強化に向けた運営上の課題解決を図る取り組み

沖縄芝居における基礎訓練法の確立および、 大道具制作と若年層向け解説書への取り組み

—沖縄芝居研究会創立十周年に際して—

沖縄芝居研究会 | 豊見城市

Facebook



取
組
概
要

① 大道具の制作 (全4回)

講師：新城榮徳 (舞台美術家)

第1回「パネル装置 (石垣、草木等)」

第2回「木戸」

第3・4回「背景幕」

② 若い世代に向けた沖縄芝居ガイドブック (手引書) の作成

③ 沖縄芝居研究会 創立十周年記念公演

日程：2022/2/19 (土)・20 (日)

会場：読谷村文化センター 鳳ホール

演目：(2/19)「泊阿嘉」、「伊江島ハンドー小」、「逆立ち幽霊」、「義理の兄妹」

(2/20)「薬師堂」、「奥山の牡丹」、「女身ぬ思い」、「花染小」

作品を支える舞台美術を次世代へ ベテランの技に触れ、 技術の継承をめざす

沖縄芝居に使用する大道具(舞台美術)制作の技術継承のための講習会を実施。講師には新城榮徳氏を迎えた。4回にわたる講習会のなかで、使用頻度の高いパネルと木戸、背景幕の制作を行った。背景幕の制作は、1日目にベースとなる生地を縫い合わせ、横幅18メートルの大きなキャンバスを作るところからスタート。2日目の色塗りの段階は、ワークショップ形式で舞台に関わる方々を中心に参加をよびかけた。日頃から自ら大道具作りに取り組んでいるお笑い芸人の方など、



新城榮徳氏を講師に迎えた大道具制作



制作した大道具が活用された「沖縄芝居研究会 創立十周年記念公演」(「泊阿嘉」の一場面)

ジャンルを超えて、舞台を支える方々の交流の機会にもなった。今後も引き続き、大道具講習会を開催していく予定である。かつて人々の娯楽の中心だったと言っても過言ではなかった沖縄芝居だが、時代とともに、作品の背景や言葉などを理解できる方は少なくなっている。これまで沖縄芝居ファンなどから寄せられていた声にこたえ、作品の解説や背景、舞台となる時代の風俗についてまとめたガイドブックの制作にも取り組んだ。老若男女問わず沖縄芝居に初めて触れる方、まとまった解

説が欲しい方に向けて、読み応え十分な内容となっている。今回を創刊号とし、定期刊行していく予定とのことであり、学校教育の場での活用なども検討している。また、沖縄芝居の基礎訓練の一環として、沖縄芝居の四大名作歌劇ゆかりの地を訪ねて歴史背景などを学ぶのはもちろん、役柄を男女逆転して演じてみるなど、日々の稽古の中でも作品に対する理解を深めていった。その集大成として、2月19日～20日には、「沖縄芝居研究会 創立十周年記念公演」を実施した。

プログラムオフィサーより

最初の道具制作の講習会は、新城先生のご自宅兼アトリエで開催され、私たちも立ち会わせていただきました。先生の作業エリアは、なんとタタミー畳にも満たない、道具と道具の「隙間」でした。にわかには信じがたい狭さのスペースで数々の舞台装置を制作し、背景幕に至っては、横幅およそ18mあるキャンバスを9分割し、吊り下げて少しずつずらしながら、描き続けてきたそうです。完成形は頭の中のイメージのみ、です。後々、広い公民館を借りて、背景幕のワークショップを実施するのですが、とてもマネできる技ではないな、と痛感しました。無いなら無いなりにジブンを働かせることも、これからの世代に引き継いでいきたいものです。(担当：真栄城)

幼児向け演劇プログラムの開発

一般社団法人 おきなわ芸術文化の箱 | 那覇市

Web



取
組
概
要

① 幼児向け演劇プログラム開発の為のリサーチ

調査先：光の子幼稚園（那覇市）、人形劇団かじまやあ（名護市）、
NPO法人沖縄県学童・保育支援センター（浦添市）、
沖縄なほ子ども劇場（那覇市）、相愛幼稚園（那覇市）、
三股町役場（宮崎県）

勉強会：平田オリザ ワークショップ・講演会

「22世紀を見る君たちへ～これからの「学び」と「演劇」について～」

2021/7/26（月） アトリエ銘苅ベース

② 演劇プログラムの開発

「OH!GYAA!!」TEAM SPOT JUMBLE、「ぼくらのおうち」劇艶おとな団

「みんなわけき ～沖縄の民話～」演撃戦隊ジャスプレッソ

「ぼくはみんながだいすき」演劇ユニット多々ら

③ 試演会の実施

2021/10/31（日） アトリエ銘苅ベース（那覇市）

2021/12/21（火） 光の子幼稚園（那覇市）

特別な体験を子どもたちへ届ける

沖縄県内の保育園や幼稚園で行われる人形劇や演劇は、県内で幼児演劇に取り組む団体が少ないため、そのほとんどが県外の劇団を招聘して開催されてきた。一般社団法人おきなわ芸術文化の箱は、より多くの子どもたちに観劇体験を届け、また県内の劇団の活動機会を増やすことを目指して4つの劇団による4演目を開発した。合言葉は「沖縄の子どもたちに演劇体験を届けよう！」。

参加型ショートストーリー「OH!GYAA!!」は、観客の子どもたちが主人公の「弟を見守るお兄ちゃん」に導かれ、まねっこごっこやトンネくぐりなどに参加することで想像力と表現力を働かせ、人と人



劇艶おとな団「ぼくらのおうち」



演劇ユニット多々ら「ぼくはみんながだいすき」

との関係性を学ぶ。

チェロの生伴奏が印象的な「ぼくらのおうち」は、2匹のケナガネズミの冒険物語。舞台装置が転換して場面がどんどん変わり、幼い子ども最後まで集中して楽しめる。

「みんなわけき ～沖縄の民話～」は、読谷村に伝わる民話を基にしたお話。民話に含まれる教訓と、三線など沖縄の文化に触れることができる。

「ぼくはみんながだいすき」は、ヒーローに憧れる幼稚園児が主人公。成長過程で誰もが経験する自分と他者の違いを認識する過程に着目する。

どの演目も、県内各地での出張公演を想定して制作され、特殊な機材も必要ない。地域のイベントや幼稚園など、子どもたちに直接届けることが

できる。試演会では、個性あふれる俳優たちの熱演に、子どもたちから大きな歓声があがった。

リサーチから見えてきた課題、次の目標

開発にあたっては、県内の幼稚園や劇団、文化団体へヒアリングした内容が反映された。また、県外の劇団の先行事例を調査したところ、劇団としての営業スキルをさらに上げる必要があることを改めて認識し、幼児向け演劇の広報ツールとしてウェブサイト、プロモーションビデオ、パンフレットを制作した。今後の上演に繋げるために活用していく。

プログラムオフィサーより

今回のプログラムは、4つの劇団とおきなわ芸術文化の箱でリサーチした内容を共有し、勉強会を重ねて開発しました。また、次年度の計画としていた幼稚園での出張試演会を前倒して開催できました。5会場での実施を決めたものの、感染症拡大により実現したのは1会場のみでしたが、60名もの園児を前にした試演は無事成功し、大好評を得ました。子どもたちへ演劇を届けるための挑戦は続きます。(担当：麻生)

復帰50年写真展へ向けた 戦後沖縄写真史の再構築事業

まぶいぐみ実行委員会 | 沖縄市

Facebook



取
組
概
要

① 復帰50年写真展に向けた公開研究会（全6回）

- ・「『琉球弧の写真』展と沖縄写真の現在」
ゲスト：伊藤貴弘（東京都写真美術館学芸員）
- ・「復帰50年に向けて考える～戦後沖縄写真の軌跡」
ゲスト：島袋正敏（元名護博物館館長）、小屋敷琢己（琉球大学教授）
- ・「沖縄写真の軌跡に向けて」 ゲスト：浜昇（写真家）、北島敬三（写真家）
- ・「本土から沖縄をまなざした写真家の型」 ゲスト：倉石信乃（明治大学教授）
- ・「戦後沖縄写真史の再構築におけるアーカイブズの可能性」
ゲスト：高科真紀（国立歴史民俗博物館特任助教）、
三嶋啓二（NPO法人沖縄ある記代表、琉米歴史研究会理事）
- ・「『日本人』の境界と博覧会的まなざし」
ゲスト：小原真史（キュレーター、映像作家、東京工芸大学准教授）

② 沖縄写真の調査研究とアーカイブ事業

- ・阿波根昌鴻、比嘉康雄、平良孝七らの写真の調査、ネガや資料のアーカイブ

写真が時代に果たす役割

沖縄の写真家を中心とした集団であるまぶいぐみ実行委員会は、写真展と関連するシンポジウム等での対話を通して、撮ること・観ることに加え、写真が新たな意義や価値を生み出す可能性を模索し、社会に提案し続けている。

復帰50年をむかえる今年度、彼らは戦後の沖縄写真文化の再構築に取り組んだ。沖縄ではこれまで、復帰20年、30年、40年、45年の節目の年に大規模な写真展が開催され、写真を通して沖縄の戦後を振り返る機会が設けられてきた。それらを遡って、研究者、歴史学や民俗学の専門家、



写真やネガ、資料の調査



公開研究会「復帰50年に向けて考える～戦後沖縄写真の軌跡」

美術批評家など多くの人々が関わりながら、さまざまな角度から沖縄の写真史を検証する公開研究会が重ねられた。「『琉球弧の写真』展と沖縄写真の現在」と題した研究会では、昨年東京で開かれた7人の沖縄の写真家による大規模な展覧会を通して沖縄写真のいまを見つめた。「復帰50年に向けて考える～戦後沖縄写真の軌跡」では、阿波根昌鴻、比嘉康雄、平良孝七の3名の写真に焦点を当て、復帰20年にあたる1992年に開かれた「こだわりの眼」展などを振り返った。

「戦後沖縄写真史の再構築におけるアーカイブズの可能性」では、美術館が写真を収集する際はほとんどプリントされた作品のみで、ネガや関連資料などは作家本人やその家族に委ねられている現状が示され、写真の保存・活用の拠点となるアーカイブズセンター等が沖縄に設立されることへの期待も語られた。戦後生まれ世代は全県民の8割を超えているという。復帰前から現在までの記憶の継承という課題が日々迫ってくるなか、まぶいぐみは今後も写真が時代に果たす役割を教えてくれる。

プログラムオフィサーより

若手写真家や美術批評家など、まぶいぐみには次世代メンバーの加入が続いています。戦後の沖縄写真をたどるプロジェクトに彼らが関わったことで、まぶいぐみの活動は今後さらに広がりを見せるでしょう。今年度のある研究会では「『復帰』という言葉をもう無しにしていかなければ」という声もありました。2022年は、沖縄で写真に関わる人々にとってもこれまでとは少し意味合いの違う節目になるのでしょうか。「復帰50年写真展」をしっかり見届けたいと思います。（担当：林）

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

サブスク時代における沖縄発の音楽プラットフォーム構築事業

株式会社 クランク | 那覇市

Web



取組概要

- ①「Music Lane Okinawa」ウェブ・プラットフォーム開発・運営
 - ・県内外の音楽シーンの情報発信
 - ・アーティスト自らカスタマイズできるユーザーページ的设计・構築
- ②「Music Lane Open Lecture」の開催
 - ・「音楽出版社といかに付き合うか。今、インディーズアーティストが知るべき最新事情」
講師：齋藤妙子 (Downtown Music Japan代表取締役)
 - ・「海外のファンベースを獲得するインターネット広告基礎講座」
講師：金野和磨 (Gerbera Music Agency合同会社代表)
 - ・「アーティストが、国境を越えるべき理由」
講師：秋山信樹 (DYGL (ディグロウ) ヴォーカル・ギター)
 - ・「デジタル配信の時代、日本で最も可能性のある沖縄から発信する意義」
講師：山口哲一 (StudioENTRE代表取締役、株式会社バグコーポレーション代表取締役)
 - ・「SNS全盛の今、必要不可欠なPRマインドについて考える」
講師：田中デイビーズ智子 (フリーランスPRエージェント、エンタメサイトOnigiri Media運営)

「Music Lane Okinawa」、登録アーティストは2年で約70件

株式会社クランクは過去数年にわたり、アジアを中心に活動する音楽プロデューサーたちを招き、音楽の流通や世界の音楽イベントの取り組みなどについて議論する「トランス・アジア・ミュージック・ミーティング(TAMM)」を沖縄で開催してきた。TAMMの役割は、「海外の音楽シーンを県内のミュージシャンに理解してもらうこと」と、「自ら海外のプロデューサーに売り込みができる機会をつくる」ということ。このような取り組みはリアルでの現場で行われたものであったが、サブスク時代を後押しするようにコロナ禍があり、取り組みをウェブに移行していこうという動きのひとつが昨年の



Lecture Vol.5「アーティストが、国境を越えるべき理由」



Lecture Vol.3「音楽出版社といかに付き合うか。今、インディーズアーティストが知るべき最新事情」

ウェブ・プラットフォーム「Music Lane Okinawa」の開設であった。インディーズアーティスト自らがサイト内でページを作りプロモーションを行えることが特徴である。昨年のアーティスト登録実績は40件程。今年はプラス30件の登録を目標としたが、登録数は伸び悩んでおり、打開策を模索中。データベースとして、新たな方向性での活路を見出すべく調整を行っている。

海外の音楽シーンやPRのノウハウを解説

海外の音楽シーンの情報や響くプロモーションの仕方のコツを伝える「Music Lane Open Lecture」。インディーズアーティスト自らがDIYによるプロモーションを行えるよう、土台をつくる

サポートとしての位置づけである。開催を追うごとに、ゆっくりと参加者が増えていくことから、サブスクリプションサービスの発展などにより、県内でもDIYのプロモーションに力を入れようとするアーティストは少なくないことがわかる。受け身からの体制が変わる今、今年のレクチャーは、音楽出版社による著作権の管理の仕方・原盤権との違いや、海外のファンベースを獲得するための戦略、海外でライブ活動をするインディーズアーティストが体験的に身につけた海外展開のノウハウなど、実践に活かせるよう意識した内容で開催した。参加者からは次回開催に期待したアンケートの回答も多い。沖縄のインディーズアーティストの積極的な活躍を目標に、クランクの奮闘はこれからも続く。

プログラムオフィサーより

情熱的な野田さんと、しっかり者の中本さんとの二人の担当コンビ。ゆっくりではあるけれど、レクチャーの参加状況からも開催する度に関わるアーティストが増えていくのが嬉しかったり、それでも登録アーティストが伸びない状況で悩んだり。予測どおりには行かないところも多かったのですが、結果的に軌道修正しながらもご自身で描いた目標を達成することができたのではないのでしょうか。名コンビのお二人の今後の活動も期待しています。(担当：島袋)

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

沖縄映画に、音声ガイド・字幕を付け、 沖縄発映画の新たな鑑賞方法創出事業

株式会社 918 | 豊見城市



取
組
概
要

- ① 作品の選定、著作権許諾
「沖縄を変えた男」「ココロ、オドル」「洗骨」の3作品を選定し、監督の製作意図を踏まえた台本を作成。
- ② 音声ガイドナレーション収録、字幕テロップ作成、映画編集
テスト版をもとに、沖縄県視覚障害者福祉協会、手話通訳士へ改善ポイントについてヒアリングの実施。
- ③ 広報活動
社会福祉施設等への呼びかけ、上映会当日のサポート体制整備。
- ④ 音声ガイド・日本語字幕付き沖縄映画上映会「映画のミカタ」・シンポジウムの開催
選定した3作品の上映＋トークイベント・シンポジウムの開催
日程：2021/12/3（金）
会場：沖縄県立博物館・美術館 講堂
登壇者：山城智二（「沖縄を変えた男」ナレーター）、知花光英（沖縄県視覚障害者福祉協会会長）、大屋あゆみ（芸人、手話通訳士）、高山創一（映画プロデューサー）、本盛聡（株式会社 918）、末吉甘奈（司会、「ココロ、オドル」ナレーター）

新しい映画の観方を提案。 音声ガイド・日本語字幕付き 沖縄映画上映会「映画のミカタ」

本事業は、地域プロデューサーとしても活動する株式会社918(キューイチハチ)が主体となり、「上映会の運営」と「音声ガイド・字幕製作」の二つの取り組みについて高山製作所と協力体制を組んで進めていったものである。運営は、上映会についてのヒアリングから広報、申込み取りまとめ、当日の開催まで、製作は、選定した3作品の台本作成からナレーション収録、編集、テロップ作成が主な業務となる。

「映画のミカタ」のコンセプトは、「映画と一緒に楽しみ、共有できる映画鑑賞の多様な環境の整



「映画のミカタ」上映会終了後のシンポジウム



映画「沖縄を変えた男」のナレーション収録の様子

備」と「沖縄発映画の魅力の再発見」の2つ。映画の台本を制作する際にその心得として、また、共通の認識として各自がもてるように整理した。スタート時にこの作業を時間をかけて行ったことで、広報や製作等のどの場面でもぶれずに、外部に対し、取り組みのイメージやスタンスを伝えることが出来た。

沖縄県視覚障害者福祉協会や 手話通訳士の芸人さんの協力で 開催できた上映会

事業は、ナレーターを選定するところからはじま

り、3作品それぞれ個性が異なる方を起用した。作品ごとに新しいチャレンジを試み、音声ガイドや字幕をつけるときには、笑いや展開もネタバレしないよう、また、同一シーンでは喜びや悲しみ等を同時に感じてもらえるように、表現には工夫がされている。鑑賞者が映画に入り込みやすいよう、テスト版が出来た時点で、沖縄県視覚障害者福祉協会の知花光英会長に確認して頂き、再度ナレーションを入れて再編集を行った。テロップについては、ろう者のご両親をもつ手話通訳士で芸人の大屋あゆみさんが自身のネットワークで収集したアンケートをもとに（「表情が見えず、誰が話しているかわりづらい」「音楽を文字でみたい」など）、日本語字幕を反映していった。

プログラムオフィサーより

本事業は、見えにくい、聞こえにくい方にとっても、文化に触れて、エンターテインメントを楽しめる場を増やしていくことにつながる、大切な取り組みでした。進む過程で課題に向き合うことも多く、その都度軌道修正し、奮闘していった本盛さんと高山さん。お二人の底力（経験値）に感服です。(担当：島袋)

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

「おきなわの未来の三線文化」 創造拠点創出事業

沖縄県三線製作事業協同組合 | 那覇市

Web



取
組
概
要

- ① 次世代を担う若手の職人と演奏家の勉強会（全5回）
 - ・「三線演奏・音楽の魅力について考える」
 - ・「原材料（くるち）について学ぶ」
 - ・「地域資源としての三線の価値を考える」ほか
- ② 創造拠点での「三線学」教室開講に向けたモデルプログラムの検討
 - ・「くるちワークショップ」 講師：谷口慎吾（琉球大学農学部教授）
 - ・「県立博物館所蔵の文化財三線鑑賞」 講師：篠原あかね（沖縄県立博物館学芸員）
- ③ 「おきなわの未来の三線文化」創造拠点創出事業シンポジウム

日程：2021/12/25（土）

会場：浦添市産業振興センター・結の街

参加：琉球古典音楽・琉球民謡等の音楽団体、県産三線関連団体
- ④ 「おきなわの未来の三線文化」フォーラム（オンライン配信）

三線文化を支える新たな連携

沖縄県三線製作事業協同組合はこれまで、県産三線の発展・継承への危機感から、職人自らが三線の歴史と文化を発信する活動を続けてきた。北海道、埼玉、静岡、愛知など県外各地で、職人による三線講話会や三線相談・メンテナンス会、現地の三線指導者と連携した無料三線体験会などを行い、三線愛好者や三線に興味のある人々に直接働きかけ、県産三線の魅力を伝えた。

今年度は主に沖縄県内を中心に県産三線の発展に向けて活動した。

まず、次世代を担う若手の職人と演奏家に改めて三線に関する知見を深めてもらおうと、5回の勉強



組合店舗からの生配信にも挑戦



若手の職人と演奏家の勉強会

強会を実施。職人と琉球古典音楽、琉球民謡、ポップス音楽の演奏家など27名が参加した初回は、それぞれの活動の現状や課題を共有し、未来の三線文化のあり方について意見交換が行われた。これまではジャンルを超えて演奏家が集まることはほとんどなかったといい、参加者からは三線人口・ウチナーグチ話者の減少への危機感や、自主的な活動の継続に向けてマネジメントを学びたい、といった声があがり、継続して交流の場が持たれることに期待が寄せられた。ほかに、県産三線の原料となるくるち（琉球黒檀）の研究にも取り組んだ。琉球大学農学部教授を講師に招いて、講演や、くるちの種まきワー

クショップを開催したり、若手の職人と演奏家が「くるちの杜」（読谷村）で学んだり、くるちの継承に向けた取り組みが広がりを見せた。また今年度は、三線にかかわるさまざまな関係者との意見交換が進み、新しい連携が動きはじめた。職人や演奏家のみならず、研究機関や教育機関などがそれぞれの専門性を持ち寄って、沖縄の三線文化をともに支えていくための「沖縄県三線文化振興協議会」の設立準備委員会がたちあがったのだ。数年後の協議会発足に向けて、準備委員会の参加団体で協働事業を実施するなど、連携の機運を高める活動が進んでいく。

プログラムオフィサーより

配信による実施となった事業報告を兼ねたフォーラムの動画が三線組合のYouTubeチャンネルにアップされています。事務局長・仲嶺さんの「三線文化が生まれ続ける沖縄を目指したい」というコメントが印象的です。ぜひご視聴ください。

いま三線組合店舗の軒下では種から育てたくるちが芽吹き青々と成長を続けています。くるちのようすをのぞきながら、県産三線を選びに足を運んでみてはいかがでしょうか。（担当：林）

2 文化芸術の享受者の拡大に資する魅力的な創造発信を行う取り組み

やんばるんるん♪コンサートプロジェクト

特定非営利活動法人 琉球交響楽団 | 浦添市



Web

取組概要

① やんばるんるん♪コンサートプロジェクト

・Vol.1「公民館コンサート」(12月～2月)

会場：名護市内の自治公民館

・Vol.2「まちなかコンサート」

日程：2022/2/26(土)

会場：津嘉山酒造所(名護市)

日程：2022/2/27(日)

会場：ネオパークオキナワ(名護市)、名護市民会館

・Vol.3「ふれあいコンサート」

日程：2022/2/6(日)

会場：大宜味村立旧塩屋小学校

日程：2022/2/23(水・祝)

会場：東村農民研修施設

・Vol.4「映像での鑑賞機会の創出」

沖縄や名護市にゆかりのある曲を収録した映像を、名護市内各所に配布。

② 拠点づくりに向けたアンケート調査及びプロモーション活動

・琉球交響楽団の認知度及びクラシック音楽に対する意識調査

・プロモーション公演

日程：2022/1/14(金)

会場：名護市民会館中ホール



「ふれあいコンサート in 大宜味村」

きなかった地域を中心に約40箇所へ配布。コロナ禍においてもクラシックの鑑賞機会を創出することに取り組んだ。

「まちなかコンサート」では、テーマパークや酒造所など身近な場所で演奏し、ふと音楽が聴こえてくるサプライズ感も演出した。

「ふれあいコンサート」(10～25名編成)では、東村と大宜味村の地元の皆さんを招待し、本格的な室内オーケストラの演奏を聴く機会をつくった。鑑賞のみならず、指揮体験や手拍子での共演などの参加型プログラムも組み込まれていた。

これらの公演で、楽団やクラシック音楽に対する意識調査アンケートを実施し、今後の文化活動に向けての検証作業を行った。なお、このアンケートは企業、市町村、文化施設向けにも実施された。

プロモーション公演は、アンケート調査の結果を参考に、市町村、企業などに具体的に企画提案するため、これまでに行ってきた様々なスタイルでの演奏を聴いてもらい、今後、どのようなプログラムにニーズがあるのか、さらなるアンケートやヒアリングなどを実施して検討した。

いざ!やんばるへ!!

身近なところでクラシック音楽にふれる

「やんばるんるん♪コンサートプロジェクト」は、やんばる地域でクラシック音楽にふれる機会を創出するための取り組みで、名護市内の自治公民館を対象とした「公民館コンサート」(2～5名編成)では、クリスマス会やゲートボールを楽しむ地域コミュニティの中で演奏を実施。

また、沖縄や名護市にゆかりのある曲の演奏を収録・編集した映像DVDを作成し、演奏会を実施で



クリスマス会での演奏

プログラムオフィサーより



琉響さんはいつもクレイジーな企画を考えて、それを実現してしまいます。それもチーム力があってこそ。

コロナ禍でもリアルな「演奏会」を届ける方法を模索し続けました。普段なかなかコンサートが実施されないやんばるで演奏会ができたことで、「クラシック音楽を県民の皆さんに気軽に触れて楽しんでもらいたい!生の演奏を届けたい!」という団員の皆さんの熱い思いがひとまず“全県区制覇”したようです。(担当:真栄城)

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

沖縄戦・ひめゆり学徒隊の歴史を海外に伝える 展示プロジェクト

公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館附属
ひめゆり平和研究所 | 糸満市

Web



取組概要

- ① 特別展「ひめゆりとハワイ」の開催
会期：2021/10/1（金）～2022/2/27（日） 会場：ひめゆり平和祈念資料館（第6展示室）
- ② 特別展開期中の関連イベントの実施（3件）
 - ・「ひめゆりとハワイを語るオンライントークイベント」
日程：2021/11/28（日）
登壇者：石田正人（ハワイ大学准教授）、仲程昌徳（ひめゆり平和祈念財団理事長）、
普天間朝佳（ひめゆり平和祈念資料館館長）
 - ・「ひめゆりとハワイ」展の出張ミニ展示会
会期：2022/2/2（水）～28（月） 会場：JICA沖縄国際センター
 - ・ハワイウチナーンチュ交流イベントへの参加、展示会の紹介
日程：2022/2/27（日） オンライン開催
- ③ オンライン授業の実施
Okinawan Genealogical Society of Hawaii (OGSH) とのトライアル授業
日程：2022/2/20（日）
- ④ オンライン展示のホームページ作成、情報発信
- ⑤ ハワイとひめゆりの関係性リサーチの継続と報告書の作成

“知らない世代”の新しい伝え方で 世界中に届ける試み

今年度は特別展「ひめゆりとハワイ」を実施した。特別展関連イベントとして、ハワイ大学・沖縄研究センターの石田正人准教授を迎え、オンライントークイベントを開催。これまでのハワイとの取り組みの紹介、沖縄戦を知らない世代同士で、これからどのように伝えていかなど意見が交わされた。イベントの様子は、英語字幕付きの動画でアーカイブする。関連イベントとしては他にJICAで



JICAにて「ひめゆりとハワイ」展のミニ展示を開催



特別展「ひめゆりとハワイ」プレスレビュー

の出張ミニ展示会、ハワイ沖縄県人会の方々との交流イベントなども実施。ひめゆりの海外での伝わり方について語り合った。また、直接展示会に足を運べない方々にもむけて、特設ホームページを制作し、ウェブ展示も同時に実施した。これまでのハワイ調査や特別展の内容をまとめた図録の販売も行っている。オンライン授業については、本プロジェクトで制作した特別展専用のウェブサイトやひめゆり学徒の証言映像などを活用して、ひめゆりを知らない海外の若い世代に向けたプログラムの開発に取り組んだ。ハワイ県人会とも連携し、海外（ハワイ）での認知度、ターゲット、英語での伝え方などについて話し合いを重ね、授業の本格的

な実施に向けた検討を続けている。初年度の2019年には、ハワイでの現地調査を2回実施することができた。証言者の方からは、これまで家族にも語られなかった貴重なお話を伺い、ひめゆりの戦後史も含めて今後もより詳しい調査が求められることが明らかになった矢先のコロナ禍だった。ハワイへ渡航できない期間も、電話やオンラインでの交流を続け、3年間の事業の総まとめとしての報告書も作成した。今後は、特別展をパッケージ化し、ひめゆり平和祈念資料館以外でも企画展が実施できるよう、各市町村の歴史・文化資料館等との連携を深め、各市町村の県人会からも、ひめゆりについて発信していけることも目指している。

プログラムオフィサーより

ひめゆり学徒というと、戦場での悲劇が目立りますが、本来は、現代と同じように学園生活を楽しむ普通的女子学生でした。その生活の記憶を残しておくこともとても大切だと思います。当時学生だった皆さんもご高齢。電話やオンラインではなく、直接お会いして話を聞きたいという気持ちが募るばかりですが、戦争を知らない世代がさらにその先の世代へ伝えていくためにはどうしたら良いか、研究を重ねながら日々模索しています。（担当：真栄城）

3 文化芸術資源を活用して地域の諸課題の解決を促進する取り組み

アーティストと開発する 社会教育プログラム

特定非営利活動法人 地域サポートわかさ | 那覇市



取
組
概
要

① アートな部活動

- ・ダンボール部 (全6回) 顧問: 儀間朝龍 (アーティスト)
- ・ポストポスト部 (全22回) 顧問: 平良亜弥 (アーティスト)
- ・ユーチュー部 (全5回) 顧問: 藤井光 (美術家、映画監督、作家)
- ・アート同好会 (全13回) 顧問: 土屋誠一 (沖縄県立芸術大学美術工芸学部准教授)

・成果発表会及び関連トークイベント

日程: 2022/2/23 (水・祝)
 登壇者: 各部活動顧問、中村斉 (那覇中学校校長)、宮城潤 (若狭公民館館長)
 モデレーター: 若林朋子 (プログラム・コーディネーター)

② パネルディスカッション

「生きる力をはぐくむために〜アートがもたらす教育の広がり可能性〜」
 日程: 2021/7/25 (日)

登壇者: 堤康彦 (NPO法人 芸術家と子どもたち代表)、
 喜舎場梓 (株式会社TEAM SPOT JUMBLE制作)、
 翁長有希 (キャリア教育コーディネーター)、
 知花幸美 (YUKIMIバレエ・コンテンポラ・スクエア主宰)、
 牧野篤 (東京大学大学院教育学研究科教授)、宮城潤 (若狭公民館館長)

③ 『「アート×社会教育」ワークブック』制作

新たな視点を持つ

特定非営利活動法人地域サポートわかさは、アートワークショップ形式による社会教育プログラムの開発を目指す「アートな部活動」に取り組んでいる。テーマ型コミュニティーをゆるやかに繋いでいく。昨年度から始めた3つの部活動に加え、今年度は新たに「アート同好会」が始まった。多感な時期に物事を多角的に捉えることを学んでほしいというねらいから、近隣の中学生を部員とし、顧問の土屋誠一氏と一緒にアートを読み解く。テーマは古今東西の美術から最新の



ポストポスト部の掲示板



ダンボール部のようす

アニメなどを含めた「視覚芸術」。観て楽しいだけでなく、作品を批評的な視点で鑑賞する。

アートにふれる、アートでつながる

「ダンボール部」では、小学生を中心に身近な廃段ボールを材料に作ったステッカーや封筒を販売することで、地域資源を活かした社会起業マインドを学ぶ。「ユーチュー部」は、スマートフォンを活用した映像制作の基礎に挑戦。制作の過程では、部員として参加した地域に住む外国人と交流しながら互いの国や文化について理解を深める。「ポストポスト部」は、公民館に設置された

ポスト「Pちゃん」への手紙の投函を呼びかけ、地域の住民から届いた手紙に部員が返事を書く、というコミュニケーションが続く。これらの部活動は、これまで地域との繋がりが薄かった外国人や、高齢者、子育て世帯など、既存のコミュニティーをゆるやかに繋いでいく。7月のパネルディスカッションでは、「答え」や「再現性」のないアートの力が、子どもたちの主体的な学びや、地域の人々が自分たちで生活課題の解決を図る力を育むことに繋がる可能性について考える機会となった。2年間の取り組み内容はウェブサイトにも掲載し、全国の社会教育関係者や関心のある方々に情報を広く届けていく。

プログラムオフィサーより

ポストポスト部は、お手紙や写真、折り紙の作品など予想できない投函物に対して、部員が掲示板にお返事を書きます。その活動に加えて今年度は、ダンボール部から発想を得た部員が絵本を作成したり、地域のスターを発掘したり、新しいゲームを開発するなど昨年に増してユニークな取り組みとなりました。また、ユーチュー部は今回、公募展への出品を目指して13作品を制作し、2作品が入賞という嬉しいニュースがありました。(担当: 麻生)